



2026年2月発行

文責 にじいろこどもクリニック 院長 相澤知美

今年も雪は多かったですが、少しずつ天気が良く暖かい日も増えてきました。

インフルエンザBの流行がまだ続いていますが、ピークは越えたのかな？とっていました。

大流行にはなっていませんが、コロナウイルスが年明けから出続けているので、コロナウイルスが出た保育園や小学校の方は感染対策対応として別室で診察しています。ご協力よろしくお願ひします。

### < 感染症発生数 >

	2/2 ~7	2/9 ~14	2/16 ~21
インフルエンザ A	2	2	0
インフルエンザ B	39	82	34
新型コロナウイルス	8	9	6
マイコプラズマ	0	0	2
溶連菌	21	15	13
アデノウイルス	1	2	0
RS ウイルス	3	0	0

## 03 2026 MARCH

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
						1
2	3	4	5 17:00 まで	6 17:00 まで	7	8
9	10	11	12	13 16:30 まで	14 9:00 から	15
16	17	18	19	20 祝	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

感染症は、インフルエンザB、溶連菌が多く、  
 コロナウイルスもたまに認められます。  
 先月と比べると胃腸炎の方は減少していますが  
 ノロウイルスが流行している保育園がありました。



### 蕁麻疹

「蕁麻疹」は、**膨疹**（赤みのある膨らんだ皮疹）に**痒み**を伴う皮疹です。受診の際には「すでに消えてしまいました」と写真を見せてもらうこともあります。通常、24時間以内に自然に消えますが、一度出現すると繰り返すことがありますので、病院を受診して、抗アレルギー薬の内服や軟膏を処方してもらいましょう。

発症から6週間以内で治まるものは「**急性蕁麻疹**」で、6週間以上繰り返す場合は「**慢性蕁麻疹**」の診断となります。「慢性蕁麻疹」は5年経過して治る方が30~40%くらいという報告があるので、抗アレルギー薬での治療が長くかかると考えた方がよいかもしれません。

約80%は特発性蕁麻疹と言って、原因がわからないものになります。小児の場合は、感染症にかかっている時に一時的に出るものが多く、感染症が治まると蕁麻疹も自然に治まります。

約9%は食物が原因で、何か特定の物を食べて蕁麻疹が出たという場合は、血液検査で原因検索が必要です。咳や喘鳴、嘔吐、意識障害などを一緒に認める場合はアナフィラキシーかもしれませんので救急対応となります。

その他、寒冷・温熱刺激、日光照射、発汗、掻いたり圧迫したりするような物理的的刺激が原因となることもあります。蕁麻疹を繰り返す場合は病院で相談して下さい。